

令和4年度

がんばる
介護事業所表彰



高齢者の自立支援や生活の質の向上、雇用環境の改善に
取り組む富山県内の介護事業所等を紹介します

「がんばる 介護事業所表彰」とは…

高齢者の自立支援や尊厳の保持に資する良質な介護サービスの提供や、
介護職員の意欲向上につながる

人材育成の充実・職場環境の改善などに積極的に取り組み、
他の模範となるような顕著な成果を出している介護事業所等を表彰し、
これを広く周知することにより、

介護サービスの質の向上や介護人材の安定的確保を図るものです。

(平成28年度創設)

以下の2部門を設定し、それぞれ該当する事業所等を表彰しています。

自立支援部門

利用者のより豊かな生活の実現を目指して、自立支援・生活の質の向上、
介護サービスの質の向上に向けて優れた取組みを進めている事業所を表彰

県内で以下のサービスを提供しており、かつ開設から2年以上経過している介護保険施設・事業所

- ◎介護老人福祉施設
(地域密着型を含む)
- ◎介護老人保健施設
- ◎介護医療院
- ◎介護療養型医療施設
- ◎通所介護
(地域密着型、療養通所介護を含む)
- ◎認知症対応型通所介護
- ◎通所リハビリテーション
- ◎訪問介護
- ◎訪問入浴介護
- ◎訪問看護
- ◎訪問リハビリテーション
- ◎夜間対応型訪問介護
- ◎定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- ◎居宅介護支援
- ◎特定施設入居者生活介護
(地域密着型を含む)
- ◎認知症対応型共同生活介護
- ◎小規模多機能型居宅介護
- ◎看護小規模多機能型居宅介護
- ◎福祉用具貸与・販売
- ◎居宅療養管理指導

- 取組み例**
- ◎ ケアプランに「聞き書きボランティア」などインフォーマルサービスを取り入れたところ、認知症の症状が改善した
 - ◎ 介護ロボットの活用により、夜間事故を大幅に削減し入院者ゼロを達成した
 - ◎ オンラインコンサートを施設で生中継し、楽しみながら機能訓練を行ったほか、オンラインを通じた同世代の高齢者とのコミュニケーションの促進につながった など

令和4年度受賞事業所一覧

事業所(施設)名	所在地
ささづ苑デイサービスセンター	富山市
グループホームあおぞら	上市町
射水万葉会 天正寺サポートセンター	富山市



表彰式

令和4年12月22日（木）

会場：富山県庁3階特別室



雇用環境部門

人材育成の充実や職場環境の改善などに積極的に取り組む事業所を表彰

県内で高齢者福祉サービス又は障害(児)者福祉サービスを提供しており、かつ開設から5年以上経過している以下の要件を全て満たす法人・事業所

- 要件**
- ① 労働基準法等、法令に沿った就業規則の整備
 - ② 労働基準法など労働関係法令、その他法令について過去3年間無違反
 - ③ 処遇改善加算Ⅰの提出

- 取組み例**
- 新人職員の研修の実施指導担当者に対する独自の内部研修の実施
 - 看護休暇・介護休暇の設定など育児・介護を両立できる取組みの実施
 - 職員の腰痛対策を含む負担軽減のための介護ロボット等の導入
 - ICTの活用による職員の負担軽減や業務省力化
 - 職員表彰制度の導入
- など

令和4年度受賞事業所一覧

法人（事業所）名	所在地	法人（事業所）名	所在地
社会福祉法人 喜寿会	射水市	社会福祉法人 誠心会	富山市
社会福祉法人 福鳳会	高岡市	社会福祉法人 梨雲福祉会	富山市
社会福祉法人 光風会	富山市		

表彰の経過等

募集期間

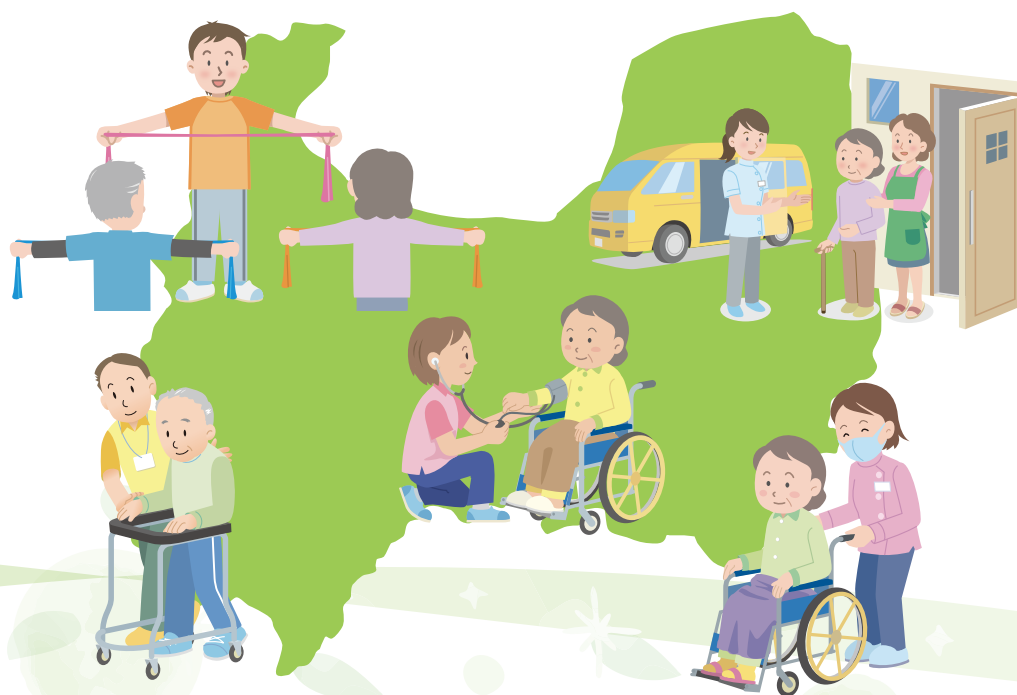
令和4年7月1日（金）～8月31日（水）

検討会 (表彰事業所の選定)

令和4年11月14日（月）自立支援部門
令和4年11月18日（金）雇用環境部門
有識者による検討会の審査をふまえ、県が決定

表彰式

令和4年12月22日（木）
会場：富山県庁3階特別室



自立支援部門

評価のポイント

- 利用者が諦めていた、人生でやりたいと思っていた、一人の力では実現が困難な夢を、ケアマネージャーや看護師など多職種の職員、利用者の家族が一丸となって実現をサポートすることで、利用者の新たな生きがいの創出に繋げている

社会福祉法人宣長康久会

ささづ苑デイサービスセンター

所在地 富山市下夕林141番地

サービス 通所介護

電話 076-467-5155

URL <https://www.sasazuen.or.jp>

取組みを始めた背景・経緯

「あれがしたかった」「これがしたかった」とやりたかったこと、叶えたかったことを、過去形で語るご利用者様と関わっていく中で、ご利用者様が人生でやり残したことや諦めていた夢をくみ取り、ともに実現したいとの思いから、“夢応援プロジェクト”がスタートしました。

取組みの概要・特徴

R3年より本格的に“夢応援プロジェクト”を始動しました。ご利用者様のかなえたい夢を聞き取り、施設内に掲げた“夢の木”に貼ることで見える化するするとともに、多職種の職員やご家族が連携して、“夢”の実現に繋げています。



特に工夫したこと・苦労したこと

- 夢の内容を知るため、ご家族へのアンケートや利用者様のプロフィール作成を行いました。
- 叶えたい夢や実現した夢を見える化し、職員やご利用者様がみんなの夢を共有できるようにしました。
- 叶えることが難しい夢を伺った場合は、どのような形で実現に近づけられるか、ご利用者様と職員と一緒にアイデアを話し合うことに努めました。

夢実現例

聞き取った夢の内容	実現した内容
自分が作ったダムを見たい	故郷へ行き、建設に携わったダムを見学
カターレ富山の選手に会いたい	競技場にて試合観戦・ピッチ上にて選手との交流
生まれ故郷へ行きたい	故郷での思い出の場所巡り
また畑がしたい	苑内にて職員と共に野菜を育て、その野菜を調理し食べる

取組みの成果

“叶わない夢”から“叶う夢”になったことで「次の夢は何にしよう」「こんなこともできるかな？」など、ご利用者様の活動意欲が増していることを実感しています。

職員も、夢が叶ったご利用者様の笑顔を見ると嬉しい気持ちになり、「もっと夢のお手伝いがしたい」「もっとプロジェクトの質を上げたい」など、やりがいや士気の向上につながっています。

また、施設のHPやSNS等での情報発信により、利用希望のお問い合わせや、介護職員の入職のきっかけになるなど、プロジェクトの効果が施設内にとどまらず広がっていることを実感しています。

引き続き当施設ではご利用者様の自立・自律支援に努めていきます。



試合観戦の様子

自立支援部門

評価のポイント

- 家事などの日常生活行為を細分化し、本人が力を発揮できる場面を創出、QOLの向上を実現している
- 日常の家事や町内会の仕事を分担・協力して行うことで、コミュニケーション機会の創出や地域コミュニティにおける役割創出、利用者のADLの向上に繋げている

有限会社あおぞら

グループホームあおぞら

所在地 中新川郡上市町若杉3丁目522番地

サービス 認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護

電話 076-472-5503

URL <http://www.gh-aozora.jp/>

取組みを始めた背景・経緯

当施設では、「笑顔と信頼のあるホームで自分らしさを失わずに生きる」を理念に掲げています。

コロナ感染予防のため外出や行事の制約が続き、生活の質が低下していく中で、もう一度利用者さんが生活意欲を取り戻せるような支援ができないかと考え、今回、日常生活を見直して、お一人おひとりが有する力を発揮できる新たな場面作りに取り組みました。

取組みの概要・特徴

① 家事の細分化による「できること」の創出

- 家事作業に焦点を当て、お一人おひとりの好きな事、得意な事、有する力等を再度アセスメントしました。
- 一連の家事を細分化することで、自分は何もできないと思っていた利用者さんにもできることを創出しました。



一連の家事など	細分化してできたこと
洗濯物をたたむ、片付ける	洗濯ばさみから衣類を外す
食後の後片付け	自分の届く範囲のテーブルを拭く
花壇の手入れ	水をやる、土をならす、道具を運ぶ



② 地域における役割の創出

- 利用者さんたちが町内でできる役割を地域の方に相談したところ、町内会長より、担い手がおらず中止している町内の緑化活動に協力してほしいと依頼があり、花壇の手入れを利用者さんたちで担当することになりました。
- 花壇の手入れも、それぞれでできることを担当しています。

特に工夫したこと・苦労したこと

- 利用者さん自らが「やってみよう！」と思えるように物を配置したり、スタッフと一緒にできるように声掛けを工夫したりして環境を整えました。
- 花壇は施設から100mほど離れたところにあるため、気分転換や散歩を兼ねて出かける機会としました。花壇の近くにあるスーパーにもご協力いただき、水やりの道具を設置いただいたり、水やり用の水をスーパーで分けていただいたりなど、地域とのコミュニケーション創出につなげています。

取組みの成果

【職員の立場から】 ただ単に「介助してあげる」のではなく、「どうしたら利用者さんが自分でできるか」という視点で日常生活行為全般を見直すことで、利用者さんの自立的な生活につなげられると実感しました。

【利用者の立場から】 地域の中で役割を持つことで、利用者さんの生活に張り合いが生まれました。また、活動中に地域の人達から声を掛けられることも増え、地域との関係性が向上しました。

これからも「支援があればできること」を見つけて、お一人おひとりの自立支援につなげていきたいと思えます。

自立支援部門

評価のポイント

- 手作りおやつを通じて、利用者同士のコミュニティを創出している
- 中高生や介護実習生との多世代交流を通じ、QOLの向上を実現している
- 他の利用者のために手作りおやつを作ってあげたいという利用者のモチベーションを引き出し、生きがいを創出している

社会福祉法人射水万葉会

射水万葉会 天正寺サポートセンター

所在地 富山市天正寺484番地1

サービス 認知症対応型通所介護

電話 076-411-4040

URL <http://www.imizu-manyoukai>

取組みを始めた背景・経緯

認知症だから何かをあきらめるのではなく、「できること、どのようなサポートがあればいいのか」を職員の中で意識付けし、利用者の皆さんの楽しみの1つであるおやつに着目し作るよこび・食べるよこびから自立支援、自己実現、社会的役割の獲得に繋がりました。

取組みの概要・特徴

- 手作りおやつ（週2回）の開催
- 嗜好調査（アンケート）の実施
- 残存能力の把握
- 開催後に次回予告を行い、継続的に実施



特に工夫したこと・苦労したこと

- 使いやすい調理器具など、手作りできる環境の整備
- マンネリ化しない四季を感じるメニューの作成（54種類）
- 誰かのために手作りするという思いのこもった手作りおやつの実施
- フレンチ料理のフルコースを各回人数限定で提供し、食の楽しみを創出



フレンチコースの様子

取組みの成果

- 手作りできたことが自信に繋がり、ステップアップして、自分の食べたいお菓子里に挑戦したい、他利用者のために作りたいという意欲の創出につながった。
- おやつ作りを通して、利用者自身の役割や居場所の獲得につながった。
- 利用者間や家族間での会話が増え、以前より表情や感情が表出するようになった。
- 食事量の少ない利用者が、おやつであれば全量食べるようになった。
- 高校生ボランティアや14歳の挑戦など、手作りおやつの活動を通じた多世代交流によりコミュニティの創出につながった。



多世代交流の様子

- 参加人数の変化（R4.3時点→R4.8時点）（延数）

全体の参加者数 6名 → **26名**
混ぜる・こねる・絞る 3名 → **15名**

包丁使用 0名 → **4名**
盛り付け 5名 → **19名**

雇用環境部門

社会福祉法人

喜寿会

所在地 射水市七美891番地

サービス 介護老人保健施設、通所介護 等

電話 0766-86-2500

URL <http://kijukai.or.jp/>

評価のポイント

- 抱え上げ0%を達成し、利用者・職員双方にとって安心・安全・安楽な介護を実現している
- 継続して福祉用具・介護ロボット・ICTを導入し、最適な組み合わせを工夫することにより、介護の質を向上させ、安心、安全、安楽な介護に繋がっている

取組みを始めた背景・経緯

当法人では、平成29年から腰痛予防プロジェクトを実施し、利用者様・職員双方にとって安心・安全・安楽な介護（介助）を提唱（SPH: Safe Patient Handling の概念）し、その達成のためにテクノロジー（介護リフト・ロボット・ICT等）を大量導入し、組み合わせで使用してきましたが、その総合的な効果を実感できていない状況でした。

取組みの概要・特徴

SPH教育（概念、技術）、テクノロジー（介護リフト・ロボット・ICT等）の導入により、介護の生産性向上を図っています。

特に工夫したこと・苦労したこと

福祉用具と介護ロボット・ICTのテクノロジーを大量導入するとともに、適切な動作方法や機器の安全な使用方法など、職員の知識・技術を万全にして、最適な組み合わせで相乗効果が出せるようにしています。



介護テクノロジー

取組みの成果

【利用者様の立場から】

- 皮下出血の報告件数が大幅に低下するなど、介護事故のリスクが低下しています。（安全な介護の実現）
- 抱え上げの介助や、掴む介助等の不快な介護を行わないため、快適で安楽な介護を実現できています。（安楽な介護の実現）

【職員の立場から】

- 眠りSCANや離床センサー付きベッドにより、離れた場所からでもリアルタイムで状況を確認できるため、迅速な対応が可能になっています。（安心な介護の実現）
- 抱え上げる動作がなくなったことで、腰痛リスクが大幅に低下したほか、業務中、特に夜勤中の歩行数が半減するなど大きな負担軽減になっています。

【その他】

SPHと福祉用具、介護ロボット、ICTを組み合わせた取り組みが、全国老人福祉施設協議会から先進的と評価され、当法人でのロボットやICTなどのテクノロジーを活用した介護の実践例を紹介する動画が制作されました。（動画は全国老人福祉施設協議会の公式YouTubeチャンネルで公開中）



雇用環境部門

評価のポイント

- 介護補助職員の採用により、介護職員の負担軽減を実現している
- 法人内研修を充実させるとともに、研修受講カードを配布して計画的な受講を促すなど、職員がスキルアップできる仕組みを実現している

社会福祉法人

福 鳳 会

所在地 高岡市蔵野町3番地

サービス 介護老人福祉施設、通所介護、訪問介護 等

電話 0766-31-4567

URL <https://www.fukuhoukai.jp/>

取組みを始めた背景・経緯

当法人では、以下の二つの取組みを実施しています。

①介護補助職員の採用

当法人では、令和2年度から従来型70床でもユニットケアに取組む方針としましたが、介護職員の負担軽減が課題でした。介護職員と、介護補助職員が業務を分担することにより、ユニットケアに取組む介護職員の負担を軽減することとしました。

②法人内研修の充実

ケアの質の向上には、職員のスキルアップやマインドの醸成等の自己研鑽が重要と考え、多くの職員が手軽に受けられる法人内研修を充実し、誰もが受けやすい体制づくりを行いました。



介護補助職員の採用説明会の様子

取組みの概要・特徴

①介護補助職員の採用

近隣の高齢者を対象に説明会を開催し、採用しています。個々の職員の能力や希望時間に合わせ、日々のマニュアルで業務内容を指示、確認できるようにしています。

②法人内研修の充実

パートを含む全職員に、自身の受講記録が確認できる「研修受講カード」を配付し、研修の体系を示すとともに、職員一人ひとりが計画性をもって研修に参加できるように働きかけています。

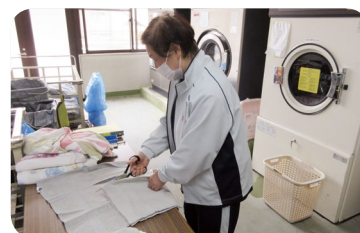
特に工夫したこと・苦労したこと

①介護補助職員の採用

不測の事態が発生した場合の相談先を予めマニュアル等で示し、不安の解消につなげているほか、最初から作業を詰め込まず、能力・体力面を考慮して、本人と話し合いながら作業の決定・見直しを常に行っています。

②法人内研修の充実

研修計画を年度初めに公表し、職務の等級ごとにどのような研修に参加する必要があるのかを明確にして、着実に知識・技術を身につけてもらっています。



取組みの成果

①介護補助職員の採用

- 利用者と年齢が近く、利用者目線で環境を見てもらうことで、これまで気付かなかった部分を改善するきっかけになりました。

- 介護補助職員の定着が進みました。（R2.4時点：6名 → R4.8時点：11名）

②法人内研修の充実

研修受講カードにより研修の受講履歴が確認できることで、研修への参加意欲の向上や、中途採用職員の学びなおし、上司による適切な指導にもつながっています。

雇用環境部門

社会福祉法人

光風会

所在地 富山市蜷川89

サービス 介護老人福祉施設 等

電話 076-461-7473

URL <http://koufuukai.jp/>

評価のポイント

- ケアアシスタントの活用により、介護職員の負担軽減を実現している
- 身体介護以外の業務をケアアシスタントが担うことで、職員が安心して介護業務に専念でき、細やかなサービスとケアの質の向上に繋がっている

取組みを始めた背景・経緯

介護量の増加と人手不足による職員の負担感が大きな課題となっていました。

一方、普段の業務を見返すと、食器洗いや配膳、掃除、ベッドメイキングなど、介護の経験がなくてもできる業務は多くあったため、職員が安心して、身体介護などの本来業務に専念できることを期待して、ケアアシスタントの導入を始めました。

取組みの概要・特徴

ケアアシスタントの導入は、令和2年6月から始めました。現在は、法人内の4拠点で、計21名（女性:19名、男性:2名）のケアアシスタントが勤務しており、年齢は65歳以上の方がほとんどです。

職員の日勤と夜勤の交代時間で、現場が手薄になりがちな時間帯（8～11時、16～19時）をメインに募集し、勤務いただいています。



特に工夫したこと・苦労したこと

○就労前に施設内の見学や業務内容を体験してもらう

ケアアシスタントを希望される方には、事前に施設内の見学や業務内容を体験してもらい、就労後のミスマッチング防止に努めています。

ケアアシスタントの年齢層として、健康状態や体力の個人差が大きく、業務中の怪我や事故のリスクについても配慮が必要となることや、介護施設等での勤務が初めてである方が多いことを考慮しています。

取組みの成果

ケアアシスタントが様々な場面で「見守り」を行ってくれ、職員が安心して本来の介護業務に専念するという目的が達成できました。利用者に対して、細やかなサービスを提供することができるため、ケアの質の向上にもつながっています。

また、業務負担の軽減以外の成果として、若手の介護職員たちがケアアシスタントから学ぶことが多いことが挙げられます。何気ない会話を通して生活の知恵を教えてください、「元気出され」と声をかけてもらったりし、毎日の業務の中でも大変心強い存在になっています。



若手職員とケアアシスタントとの打ち合わせの様子

雇用環境部門

社会福祉法人

誠心会

所在地 富山市婦中町塚原122番地

サービス 介護老人福祉施設、通所介護、短期入所生活介護 等

電話 076-466-3773

URL <http://www.kijuen.or.jp/>

評価のポイント

- 介護助手の適材適所な配置により、職場環境改善を実現している
- ユニット毎に人手が足りない時間帯、行き届かない業務を洗い出し、介護助手を増員配置し、超過勤務の縮減による家庭との両立が図られるほか、良質なサービスの提供に寄与している

取組みを始めた背景・経緯

当法人では、それぞれの部署で専門の介護職員を配置し、利用者のサービス提供に努めてきましたが、介護職員が入所者の介護だけでなく、洗濯や風呂掃除、準備品や消耗品等の調達等のその他の業務も担っていました。

そのため、介護職員の負担が大きくなり、入所者へのサービスの質が低下し、転倒等の軽微な事故やヒヤリハットが絶えない状況にありました。

その状況を改善するため、令和2年度から介護助手を導入することとしました。



取組みの概要・特徴

部署ごとに必要とされる介護の状況が異なるため、人手が不足する時間帯や業務の内容に応じて、介護助手が適切に配置されるよう努めました。

また、介護助手の採用にあたっては、勤務可能な時間帯や行える仕事内容について丁寧にくみ取るとともに、各部署のニーズに合わせた採用・配置となるようにしました。

特に工夫したこと・苦労したこと

介護助手として雇用した方々の殆どは高齢者・主婦の方が多く、職歴や経験も豊富であったことから、比較的短時間で習熟され、苦労した点は特になかったと思います。



取組みの成果

【介護職員の視点から】

介護助手の雇用以降、職員の業務量、特に洗濯や掃除、物品補充などの雑業務が大幅に低減され、その代わりに入所者のケアに充てる時間が増えた結果、良質な介護サービスの提供に寄与したほか、入所者の転倒事故やヒヤリハットの件数の減少につながりました。

(介護助手の雇用以降、事故件数が約3分の1に減少)

また、業務の煩雑さが多少解消され、ストレスの軽減にもつながったと思われます。結果として、介護職員の有給取得率向上にもつながりました。



【介護助手の視点から】

介護助手からも「働けることの楽しさ・嬉しさを実感する」と喜んでいただいています。

今回介護助手を増員し雇用したことは、施設内全体に精神的な余裕ができ、施設としても非常に有益な結果であると考えており、今後とも当施設の理念である「思いやる」「いたわる」「愛する」の心を持って介護サービスの充実に努めてまいります。

雇用環境部門

評価のポイント

- 介護助手の導入で多様な人材の確保と介護職の魅力向上を実現している
- 地域の元気高齢者を介護助手として雇用し、職員と共に業務を行い、地域の支え合い意識が高まり、多様な人材の確保と介護職の魅力向上に繋がっている

社会福祉法人

梨雲福祉会

所在地 富山市吉作1725番地

サービス 介護老人福祉施設 等

電話 076-436-2002

URL <https://www.riunen.com/>

取組みを始めた背景・経緯

介護助手の導入は、県の「地域の介護の仕事魅力アップ推進研究事業」の一環である「介護に関する入門的研修」の実施にあたり、当法人の職員がプロジェクトメンバーとして参加したことがきっかけです。地域の元気高齢者を雇用し、人材確保に繋げていくという趣旨に共感し取組みを始めました。

取組みの概要・特徴

令和4年2月に実施された「入門的研修」の修了者から当施設への就労希望があり、同年4月から介護助手の雇用を始めました。（令和4年10月時点では5名の方が勤務）

介護の資格や経験のない方もいますが、明るく穏やかな人柄や豊富な社会経験により、利用者から親しまれています。

また、介護助手の導入により、ケアワーカーがより専門性の高い業務に専念でき、人員不足解消の一助となっています。



特に工夫したこと・苦労したこと

- 就労にあたり、就労可能な日数や時間帯、業務内容について本人と十分に面談を行い、不安や負担を感じないように配慮し、雇用後も定期的に業務の進捗状況の確認や意見交換を行っています。
- 職員に対しては、介護助手が担当する（できる）業務、しない業務の線引きを明確にし、会議等で周知徹底しました。

取組みの成果

【利用者の立場から】

利用者は職員数が増えたことによる安心感が得られたほか、業務を行いながら年代が近い方との日常会話や昔話の機会を楽しみにされています。

【職場の立場から】

職員間では地域の元気高齢者を介護助手として雇用し、一緒に業務を行うことにより、地域で支え合うことへの意識が高まりました。

今後、ますます介護の人材不足が予想される中、県が取り組む「多様な人材の確保」「介護職の魅力向上」に当法人としても取り組むきっかけとなりました。





〈参考〉昨年度（令和3年度）受賞団体



自立支援部門

事業所名／サービス種別	取組概要
あさひの里 (高岡市) 【通所介護】 【定期巡回・随時対応型訪問介護】	楽しみをもって機能訓練・歩行訓練に取り組んでもらうためのレクリエーションの実施、サービス付き高齢者向け住宅向けに提供していた定期巡回サービスの地域展開 ○利用者のニーズに応じた個別のレクリエーションプログラムを作成することで、男女を問わず施設を利用しやすい環境づくりを促進 ○ICTを活用することで、ケアマネジャー、訪問看護事業者、家族などの関係者が訪問介護の状況をリアルタイムで情報共有
あいの手ケアセンター (氷見市) 【定期巡回・随時対応型訪問介護看護】	利用者それぞれの思いを踏まえた生活プラン・支援プランを作成し、プランに基づいた自立支援を実施 ○住み慣れた地域や住まいで自分らしい生活を実現するため、本人自身に日課を作成してもらい、本人が自分で行うべきことの明確化を図り、自立に向けた日常の行動に対する意識づけを強化 ○本人を自立へと導くようなサポートを行い、本人が自分でできることを増やしていくことで、生活の質の向上に繋がった。
射水万葉会 天正寺サポートセンター (富山市) 【小規模多機能型居宅介護】	カターレ富山の応援活動を通じた社会参加、日常生活の質の向上、楽しみの創出 ○施設の大型スクリーンを使ったカターレ富山の試合の応援観戦、Zoomで施設の職員がカターレ富山のスタジアムレポートを行うなど、施設の利用者と職員が一体となってカターレ富山を応援 ○カターレ富山の選手との交流を通じた社会参加、カターレ富山のサポーターとしての社会役割の創出による生活の質の向上
地域密着型特別養護老人ホームささづ苑 (富山市) 【介護老人福祉施設】	介護ロボットの活用、個別機能訓練などの実施による自立支援を強化したケア ○介護ロボットの活用による利用者の生活の質の向上、眠りスキヤンの導入によるケアの質の向上、利用者の状態に応じた個別機能訓練の実施 ○利用者の希望に応じた食事の量や食事場所を提供し、利用者各自のペースで食事を取ってもらうことで、食事中のむせ込み等のトラブルを回避し誤嚥性肺炎を予防
ケアハウス そよかぜの郷 (富山市) 【特定施設入居者生活介護】	オンライン（Zoom）キャラバンコンサートに参加し、音楽や体操を楽しみながら機能訓練を実施 ○施設の大型スクリーンにキャラバンコンサートの生中継を映し、利用者が映像を見ながら歌ったり、健康体操を行ったりするなど、楽しみながら機能訓練を実施 ○オンラインキャラバンコンサートに参加する日本全国の介護施設の利用者とZoomを通じた交流を行い、同世代の高齢者とのコミュニケーションを促進

雇用環境部門

法人名	取組概要
社会福祉法人 あかね会 (高岡市)	女性の積極的雇用、職場環境を整備し、えるぼし認定を取得 ○女性職員がやりがいを持ち長く働き続けることができる職場とするため、役職別に達成目標を細かく設定した新たな評価制度を導入、昇進等に反映し、管理職の女性比率66.7%を実現 ○企業主導型保育園で、子育て世代の未就労女性を対象とした子連れ説明会を開催するなど、女性職員の積極的雇用に取り組んだ
(医療法人財団五省会) 介護老人保健施設 みどり苑 (富山市)	介護ロボット導入割合41%を実現 ○ロボットタスクチームを立ち上げ、導入効果や効率的な運用方法検証に取り組んだ ○職員へのアンケート調査を通じて、介護ロボット活用による効果の把握や、効率的に活用するための介護ロボットが必要な場面・種類等を検討し、新規導入に繋がった
社会福祉法人 喜寿会 (射水市)	介護ロボット等の導入・不良姿勢時間の可視化により職員の身体的負担軽減を実現 ○腰痛リスクを計測する機器を使い、数値データで腰痛予防の効果を可視化した ○職員13名について介護作業中の腰痛リスクを測定し、操作業における前傾率及び腰の捻り時間が軽減できたことを明らかにし、腰痛予防の取り組みを更に推進していく意識の醸成に繋がった

がんばる介護事業所表彰



令和5年3月発行

編集発行／富山県厚生部高齢福祉課
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL076-431-4111 (代)